

- 2013年……富士山が世界文化遺産に登録。これに伴い環境保全のための富士山保全協力金(原則1,000円の任意納付)が開始。
- 2020年～……コロナ禍以降の登山ブームや軽装による弾丸登山、マナー違反が深刻化。富士宮市をはじめとする周辺自治体から、救助負担の限界や規制強化を求める声が急増。
- 2024年……山梨県側が先行して通行規制と通行料徴収を導入。静岡県側(富士宮口など)でも早期法制化への議論が加速。
- 2025年～……静岡県側で新しい入山規制条例がスタート。事前学習、夜間通行規制、入山料4,000円が義務化。現在は閉山期の「登山一律禁止」や「救助有料化」をめぐる議論が続いています。

市民が特に知りたい「富士山登山」に関する疑問を、6人の委員に聞きました！

オーバーツーリズムについて (富士山の歴史と文化)

オーバーツーリズムの根底には、富士山の歴史・文化への理解不足がある。先人の思いを知れば、無謀な登山という行動は生まれない。表層だけでなく、歴史文化軽視という社会構造にこそ目を向けるべき。

辻村岳瑠



登山中の体調管理について

令和7年、開山中の遭難者数は36人。高山病と疲労による行動不能が救助要請の大きな原因。登山前に計画・装備・体調・情報・判断の5つの準備を徹底すること。「山頂に着くこと」よりも「安全に下山すること」が大切。

山藤陽子



夏山の軽装登山の在り方について

現在問題になっているのは軽装登山である。その9割は外国の方だが、1割は日本人である。サンダル履きや半ズボンなどは大変危険で、頂上は寒く、地面は砂地で滑りやすい。山梨県では条例で軽装登山を禁止している。

村瀬 旬



登山料について

世界の高峰では数百万円!?
1位 世界最高峰エベレスト 約220万円
2位 アコンカグア約10万円
3位 キリマンジャロ 約8万9000円

登山料が必要とされる理由は「急増する登山者から山を守り、安全に登れる環境を維持するため」

仲亀恭平



自治体としての条例化について

富士山周辺の県市町で、自治体・山小屋関係者・山岳会等と連携・協議し、緊急時の避難場所整備、遭難者への対応協力、入山届提出、山岳保険加入等を定めた富士登山条例を今年度中に制定すべきと考える。

渡辺佳正



オーバーツーリズムについて

登山者の増加に伴い、遭難救助や環境保全、登山道の維持など、その費用や人手は周辺自治体が支えている。富士山を守るためにも、利用者も責任や負担を分かち合う仕組みの検討が求められている。

近藤千鶴

